

てがみ

沖縄県立開邦中学校三年 仲里 すみれ

「いってきます」
今日も私の一日が始まる
カーテンを開けば
まぶしすぎる太陽が顔を出し
ドアを開けば
青い海と空がどこまでも広がっている
水面はきらきらと輝き
緑は自然と心を和ませてくれる

シロクロ写真にうつる少女
私と同じ十五歳
彼女もこの美しい沖縄を生き
きつと、今の私と同じように
学校に行き
家族からの愛に包まれ
友と笑い合っていた

だがあの日、七十六年前のあの日
世界が変わった
七十六年前の沖縄
青かった海は血で赤く染まり
優しかった空は黒い雨を降らせた
大地はむき出しになり
緑は燃えた

そこは地獄だった
死にたくないという一心で
懸命に、必死に走る住民
母の背中で
何も知らずに泣いている幼子
足に銃弾を受け
命からがら逃げる兵士
彼女の瞳には
悲惨な光景が焼きつけられた

たった一つの爆弾が
そこに生きていた人々の命を
これからの未来を
いとも簡単に消し去ってしまう
たった一日を生きるために
危険な道を歩き
死体の中に埋もれ
恐怖や苦しさに耐える

今を生きる私に
彼女から届いた手紙
それは
どこか平和を当たり前だと感じ
幸せであることを忘れてしまう私達に
守るべきもの、大切なものは何だ
それを忘れていやしないか
と訴えている

あまりにも大きすぎる犠牲の上に
生きている私達
残酷すぎる歴史の上に
成りたつ沖縄
今この瞬間は
ここにあるすべての命は
あの日に苦しみ、こぼれ落ちた命が
あの日に耐え、生き抜いた命が
つないでくれた
かけがえのない大切なもの
そして
この地球の平和を
築いていけるもの

私は小さい
私という人間は
七十八億分の一にすぎない
小さな私のこの声は
無に等しいかもしれない
だけど私は誓う
決して命を粗末にしないことを
世界中の平和を祈り続けることを
彼女から私に届いた
絶対に破れることのない手紙を
必ず未来へ送ることを

「ただいま」
今日も私の一日が終わる
澄んだ夜空には
月が輝いている
太陽が照らすころ、
世界が平和で、美しくありますように